

平成 29 年度 諏訪二葉高校 八ツ葉支部総会参加報告

11月11日(土)、茅野駅前紅葉が美しいマリオローヤル会館にて、29年度諏訪二葉高校八ツ葉支部総会が行われました。午前10時30分から、11回生から46回生まで42名の幅広い参加者が集まり、議事、講演会、食事と予定通り進みました。小池良彦校長先生と副会長同小林佐江で参加いたしました。

支部長挨拶

支部長丸山さゆりさんにより、110周年式典やロビーコンサートの感激と共に本部役員へのねぎらいの言葉を頂きました。

同窓会の活動で久しぶりに母校へ足を運んだ際、胸いっぱいになり校歌が浮かんできたエピソードを紹介し、時代と共に形は変わっても、同窓会の存続を祈り続けると語っていただきました。

学校長挨拶

小池良彦校長先生は、進学状況、学校評価アンケート、スポーツや文化的イベント等多岐にわたる新聞記事を資料としてお持ちくださいました。具体的な生徒の活躍の様子と共に、今求められる“自己課題解決の力”が育まれていることをお話してくださいました。

来年度行われる「総文祭」では、「自然科学部門」で二葉生がリーダーとなることを教えていただきました。

同窓会挨拶 会長メッセージ

110周年記念事業の実行委員会の立ち上げから記念事業実施の報告をするとともに、それらの事業に立ち合わせていただいたご縁に対し、感謝の意を述べました。

世の中の激しい変化の中、学びの形が変わっていく現代において、これからの10年間は学校を支える同窓会として何ができるのか考える時期であると提言いたしました。

昼食会中アトラクション マリンバ演奏

花岡利恵さん(43回生) 矢島由花さん(53回生)

丸茂広子さんのお話を胸に刻みながら、食べられることに感謝する思いの昼食会でした。

親しみやすい選曲のお二人のマリンバの音色は、優しく、奥深く、お食事を鮮やかに彩ってくださいました。特に、校長先生の粋な台詞付の『港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ』は出色で、会場の喝さいを浴びました。

小林 佐江記

講演 諏訪中央病院

摂食嚥下障害看護認定看護師 丸茂広子さん
「貴方の飲み込み大丈夫ですか」(31回生)

諏訪二葉高校卒業31回生の丸茂さんは、お子様の受験と共にご自分も受験をなさり、励まし合いながら現在の職業につながる学びを達成したそうです。

嚥下のお話は、『お食い締め』の定義、つまり、食べることに対する意思決定、『命の終いかた』のお話でした。

最後の一口に「母ちゃん、梅漬けとまんまをくれとくれ」と願ったご老人、「孫にアイスを食べさせてもらった」ALSの方、「もう食べない」と家族に意思を告げ「ああ楽になった」と言った方等、数々の臨床のお話は、とても他人事ではなく、会場の皆様の涙を誘いました。そして、「人生の最後に食べたいものは何ですか？」の丸茂さんの問いは、「最後には、誰と一緒に居たいですか？」とつながりました。

口を鍛える『パタカラ体操』『おでこ体操』『新呼吸』を実践し、『最後の一口まで』と思いを強くした会場でした。

